

# 鈴木内閣は総辞職を



「金はもらっていない」と弁明する  
「灰色高官」二階堂幹事長（6月8日）

## 民主政治の確立と、新たな政治勢力の結集を

全ゆる社会体制を問わず、構造的汚職・腐敗は、行政の公正を著しくゆがめることによって、国民の政治への信頼を失わせるものである。一国の将来の盛衰興亡にかかるものだ。六〇年代の高度成長の中で肥大化した利権構造、自民党保守政治の金権体質が露呈した事態を直視しなければならない。鈴木首相は、就任にあたつて政治倫理の確立を公約しながら、「灰色高官」の二階堂氏を幹事長に選んだ。疑惑にかかる人物を政策決定の中核にすえた

鈴木内閣の責任は大きいといわなければならぬ。鈴木内閣は直ちに総辞職し、国民の前に真偽を問い合わせ、政治責任を明確にすべきである。

金権・腐敗を一掃し、新しい民主政治を確立しよう。世界平和と民主主義のために闘い抜く新たな政治勢力の結集と国民運動の発展をつくり出そう。鈴木内閣の総辞職

戦後最大の疑惑、ロツキード事件が発覚して六年余、政治家被告に対する初の判決が下った。ロツキード裁判全日空ルートで受託収賄罪に問われた元運輸相橋元登美三郎被告と元運輸政務次官佐藤孝行被告に対する東京地裁の有罪判決である。「全日空汚職」の起訴対象となつたのは、田中元首相も含めて七名の政治家。今回の判決では、職務権限や時効の壁にかくれて起訴を免れた二階堂自民党幹事長や加藤六月同全国組織委員長などの「灰色高官」にも実名をあげて言及している。ロツキード事件の核心であり、来年に予定されている「田中一審判決」の方向に大きな示唆を与えるをえない。

裁判の焦点は、両被告の「わいろ性」についての判断であったが、裁かれたのは、もちろん、二人の政治家だけではない。政権交代のない自民党「一党支配」の下で、政界と官僚、企業が着する構造をつくりだしてきた政治の体質が問題にされなければならない。

ロツキード事件の政治的、道義的責任を追求する野党有志議員による「政治倫理確立議員懇談会」が結成された。野党からは、佐藤孝行議員の辞職を求める議員辞職勧告議案の提出と「灰色高官」の証人喚問要求が出されている。この野党側からの要求を、国会運営上どう扱うか。田中派主導で行つた九十四日間の大蔵会期延長——参院全国区改正案の成立が困難になるのは必至で、もし法案が不成立に終われば鈴木内閣の責任問題に発展せざるをえない。ロツキード裁判の「6・8判決」は今後の政局を左右する波乱要因となつてゐる。

## 裁かれた政権党の腐敗



号外

1982. 6. 13

発行 立志社

〒143 東京都大田区大森北  
1-16-8 大森朝日ビル  
☎ 03-766-4179 (代)

郵便振替 東京 0-70702  
銀行振込口座 平和相互銀行  
大森支店 1036010

国民新聞「新生」を  
定期購読しよう！

20回 ￥共 4500円  
(密封 ￥共 5000円)